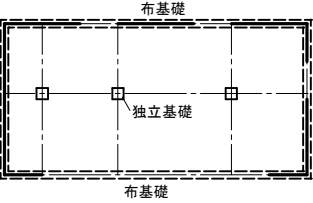
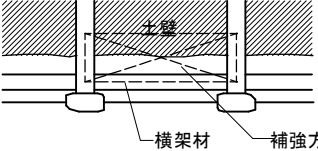
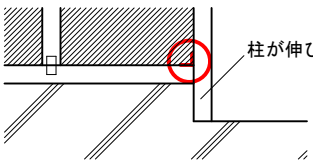
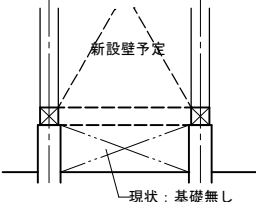
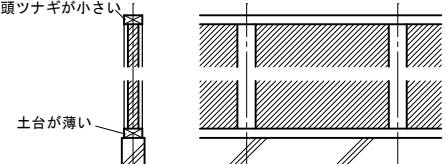
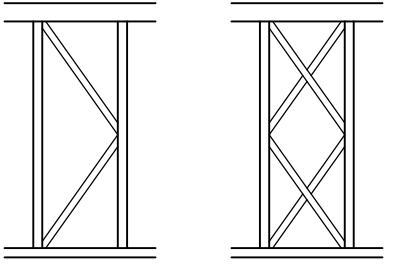
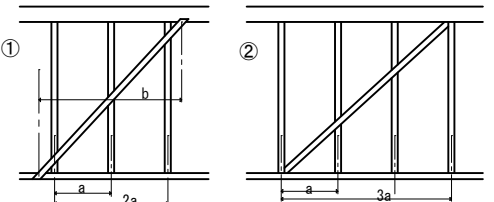
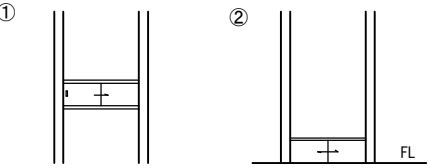
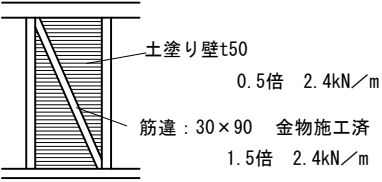
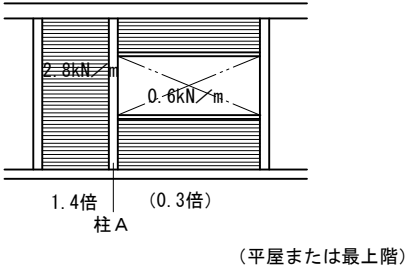


NO	参 考 図	疑問・お悩み	皆さんの意見
1		<p>周囲は無筋コンクリート造基礎、内部は布基礎が無くコンクリートの独立基礎の場合、基礎Ⅱか基礎Ⅲどちらになりますか？</p>	<p>耐力壁が布基礎に載っていれば基礎Ⅱ 布基礎に載っていない耐力壁は基礎Ⅲ</p>
2	<p>NO IMAGE</p>	<p>伝統構法など基礎Ⅲの建物で、基礎の補強無しで改修は可能でしょうか？</p>	<p>低減は受けるが可能。 足固めを入れて基礎Ⅱにするも視野に。</p>
3	 <p>補強方法は？</p>	<p>玉石基礎などで土台が無く、左図のように足固め（横架材）を取り付けた場合、土壁との隙間をどのように補強すべきでしょうか？</p>	<p>減災協A-831のような上下あきを採用 破線部分に構造用合板を打つ。 (土壁の代わりの補強)</p>
4		<p>左図のように土台より下に柱が伸びているとき、またはN03の図のような場合下端の柱仕口金物の取付は如何して取り付けるべきでしょうか？</p>	<p>左図の場合はコーナー型の金物を使用。 N03の場合も、コーナー型の金物を打つ。 平形を横に使ったりはダメ。</p>
5		<p>図のように直交する方向には基礎があるが、予定している耐力壁の下に基礎が無い場合、基礎を造るべきでしょうか？</p>	<p>直行する土台にアンカーボルトがあればOK。基礎を造る必要無し。</p>
6		<p>土台・桁（横架材）のサイズが小さい場合、耐力壁は有効でしょうか？また、どの程度のサイズが必要でしょうか？</p>	<p>横架材は柱と同材程度以上が原則。 (かさ上げはどうかという意見) それも選択の一つ。 役所は通らないかもしれない。</p>
7		<p>図のように、柱中央で切り返した筋違は、有効と考えて良いでしょうか？</p>	<p>基本は有効と見ることは出来ない。 no13の補強を参考。</p>
8		<p>左図の①、②のような場合、筋違は有効でしょうか？。有効な場合、壁長はどれだけでしょうか。筋違は30×90以上の筋違とします。</p>	<p>① 2aを壁長と考えて良いのでは。 ② 筋違に3倍の軸力がかかるので、良いとは言えない。</p>
9		<p>①戸袋の雨戸操作用の小窓 ②便所などに存在する小窓 ①、②の小窓の存在する壁は有開口耐力壁と考えて良いでしょうか？またその耐力はどれほどでしょうか？</p>	<p>① 横架材間70%で入力 ② A工法で上下あきがあるのでその数値を用いて良いのでは。</p>

NO	参 考 図	疑問・お悩み	皆さんの意見																
10		<p>柱の径が異なり、面が合わない場合、下記の工法の是非をお教えてください。</p> <p>① 胴縁くぎ打ちで面を合わせた。</p> <p>② 添え板を接着して面を合わせた。</p> <p>③ 太い方の柱を欠かして合わせた。</p> <p>④ 30×40を打って面を合わせた。</p>	<p>①15mm以内のスペーサーOK。</p> <p>②接着剤は実験していないので①で施工してください。</p> <p>③端あきそれぞれ15mm以上取ればOKだが、すごく手間が掛かるのでは④不可。</p>																
11		<p>A工法 穴あきルールの質問</p> <p>例題にはA-111をあげてありますが、大壁・真壁問わず、仕様で中棧のない物やカ・マ・タ仕様でも</p> <p>□500mm以下で開口部四周が受材で補強されていれば、耐力の低減なく有効でしょうか。</p> <p>また、上下空きでもA-234の様に合板の端部に受材がある場合、□500mm以下の開口は有効とはならないでしょうか。</p>	<p>今年370角開口の実験をしたので、3月に出る、安価な工法マニュアルを参考にする。</p> <p>実験をしていないので不可です。</p>																
12	<p>NO IMAGE</p>	<p>精密診断法を用いた改修設計について</p> <p>非破壊調査では、建防協のマニュアル通りの確認は不可能です。</p> <p>その際は精密診断法は使えないのでしょうか。</p> <p>また、一般診断に部分的に精密診断の内容・数字を用いても良いのでしょうか。</p>	<p>建防協は精密診断法による改修設計を基本にしている。</p> <p>調査が十分出来ないが改修時には可能なので、想定と違った場合は、改修して、設計に合わすか、設計変更して対応する。</p> <p>良いとご取りの設計はいけない。</p>																
13	<p>NO.7関連</p>	<p>左の写真の筋違</p> <p>サイズは三ツ割 (30×90以上) ですが、評価は可能でしょうか？</p> <p>評価可能な場合、N値計算の筋違補正はどのように考えますか？</p>	<p>横材に金物を施工し、筋違の水平力を伝えられる構造にすれば有効となる。</p> <p>N値の筋違補正は両端+0.5kNでする以外考えられない。</p>																
14	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>KN/m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>土壁</td> <td>2.8</td> <td rowspan="3">} 8.34</td> </tr> <tr> <td>筋違</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>A-335</td> <td>3.64</td> </tr> <tr> <td colspan="2">N = (4.3+0.5) × 0.8-0.4</td> <td>→ 4.3倍</td> </tr> <tr> <td colspan="2">N = 3.44</td> <td>→ ち</td> </tr> </table>		KN/m		土壁	2.8	} 8.34	筋違	1.9	A-335	3.64	N = (4.3+0.5) × 0.8-0.4		→ 4.3倍	N = 3.44		→ ち	<p>出隅の補強の場合、既存筋違があるとN値が上がり、「と」以上の金物が必要となります。</p> <p>ホールダウンアンカーを施工するより金物を落し、接合部Ⅱで設計する方が効率が良い場合があります。</p> <p>その考え方は如何でしょうか？</p>	<p>接合部Ⅱで設計して良い。</p>
	KN/m																		
土壁	2.8	} 8.34																	
筋違	1.9																		
A-335	3.64																		
N = (4.3+0.5) × 0.8-0.4		→ 4.3倍																	
N = 3.44		→ ち																	
15		<p>無筋コンクリート基礎の上にコンクリートブロック積みの上の耐力壁は、有効でしょうか？</p> <p>また、その壁を補強しても良いのでしょうか？</p>	<p>耐力は有効だが、強い壁に補強しない方が良い。</p> <p>高さが低いので、大きな耐力を受けやすく、ここから崩壊するケースが考えられるため。</p>																

NO	参 考 図	疑問・お悩み	皆さんの意見
16		<p>左図の場合</p> <p>壁倍率=0.5+1.5=2.0倍 施行令46条 基準耐力=2.4+2.4=4.8kN/m</p> <p>壁倍率換算=4.8/1.96=2.45倍 施行令と基準耐力換算値と異なる場合 N値計算はどちらですべきでしょうか。</p>	<p>どちらも正解。 両方計算して大きい方を取るのが安全。</p>
17		<p>左図 柱Aの場合</p> <p>①開口部の壁倍率を無視した場合 N値=1.4×0.5-0.6=0.10 ろ</p> <p>②開口部の壁倍率を考慮した場合 N値=(1.4-0.3)×0.5-0.6 =-0.05 い</p> <p>上記から②の値を採用して良いでしょうか。</p>	<p>達人診断ソフトでは安全をとり①で算定している。 有開口壁の耐力も有効なので②でOK。</p>